
種生物学会 News Letter No.14.
The Society for the Study of Species Biology
種生物学研究編集委員会編集 1996年11月5日発行

種生物学シンポジウム

第28回種生物学シンポジウムは1997年3月28日から3月2日につくば市で行われます（申込書および会場への交通案内は6、7ページ）。

プログラム

日程：平成9年2月28日（金）～3月2日（日）
場所：筑波山ホテル「青木屋」（つくば市）

2月28日（金）

食事 18:00～

プレシンポ 19:00～

守山 弘（農環研）「農村景観構成要素の多様性に基づく種多様性」

3月1日（土）9:00～シンポジウム1：
「農業生態系における生物多様性」

最近、生物多様性の観点にたった研究が盛んになりつつあるが、今回のシンポジウムでは、強い人為的影響下にある農業生態系における生物多様性に注目して、景観、群集、種、種以下などさまざまなレベルから切り口を探ってみる。

・農業生態系における生物多様性の保全管理

高橋佳孝（中国農試）「半自然草地の植物と保全管理」

梅本信也（京大・農）「畦畔草地の景観構成要素・生物生息地としての評価と適正な植生管理」

・既存植物相に及ぼす帰化植物のインパクト

清水矩宏（農環研）「近年の強害外来雑草の農耕地へのインパクト」

渡邊幹男（愛知教育大）「酵素多型で判別した雑種タンポポ（強奪種としての帰化タンポポ）-セイヨウタンポポはニホンタンポポをのっとれるか?-」

・雑草の繁殖特性と集団分化

汪 光熙（東北農試）「絶滅危惧植物ミズアオイの最後の抵抗 -繁殖特性およびそのSU剤抵抗性生物型の発現について-」

工藤 洋（都立大・理）「タネツケバナの開花性における地理的変異とその成因」

総合討論

総会

懇親会

3月2日（日）9:00～シンポジウム2：
「樹木における萌芽の生態学」

樹木の重要な生活史戦略における「萌芽」の役割を明らかにするために幾つかの樹種についてその形態ならびに機能に関する近年の研究成果について紹介する。

山中典和（鳥取大・乾燥地研究センター）「低木の生活史戦略における萌芽の役割」

酒井暁子（東北大・理）「フサザクラの生活史と萌芽戦略」

平 英彰（富山県林試）「タテヤマスギの遺伝的構造と伏状更新の役割」

北村系子（森林総研）「アメリカブナの生態地理的分布と個体群統計遺伝からみた動態」

谷本丈夫（宇都宮大・農）「樹木の萌芽特性と森林管理」

総合討論

第27回種生物学シンポジウムは種生物学会創立10周年記念として96年4月11日から14日の間に京大会館（京都市）で国際シンポジウム(Differentiation Patterns of Plant Populations and Adaptive Mechanisms)として行われ、120名の参加を得て盛会のうちに終わりました。招待講演のほか、会員による50件のポスターの発表が行われました。

1995年度種生物学会総会

1995年度種生物学会総会は、国際シンポジウム（27回シンポジウム）期間の内1996年4月12日に京都市左京区の京大会館にて行われた。総会では以下の項目について事務局から報告および提案があり、審議の結果、承認された。

1. 会員状況（1995. 12. 31現在）

右上の表の通りである。

2. 編集委員会報告

1) 出版物発行状況

Plant Species Biology : Vol 10, No. 1, 2を発行し、No. 3は印刷中である。

種生物学研究：第19号（1995年10月）とニュースレター13号を発行した。

表 種生物学会会員状況

	会員数	新入会員	退会者	増減
国内				
一般会員	407	19	33	-14
学生会員	37	8	5	+3
機関会員	4	0	1	-1
購読	11	0	0	0
国外				
一般会員	19	1	3	-2
学生会員	3	0	0	0
機関会員	0	0	0	0
購読	36	0	0	0

2) PSBの発行におけるIOPBとの協力について ---経過報告---

「PSBを種生物学会とIOPBの共通機関誌とする」という案については、1995年9月28日に臨時幹事会を開催して協議した。その結果、河野編集委員長、矢原副会長、副島会計幹事からなるワーキンググループで詳細に検討することになった。これまでの経緯と幹事会での決定事項は、種生物学研究第19号に掲載して会員に周知した。

3. 庶務報告

1) PSBの著作権保護に関する登録について

複写権侵害の監視と複写権料のとりまとめの代行を学協会著作権協議会に委託契約した（1995年8月18日付）。また、アメリカの複写権センター(CCC:Copyright Clearance Center)にも登録した。委託契約の期間は1995年4月1日から5年間である（登録経費は3,000円）。

2) 植物分類学関連学会連絡会からの活動協力依頼について

日本植物分類学会から、植物分類学関連の9学会の間での情報交換と活動協力体制の確立を目的とした植物分類学関連学会連絡会の設立が提案され、その会合が昨年度に2回行われた。会員名簿の共同作製が提案されている。これらの提案に対して当学会としては大筋において賛同しており、内容については慎重に協議していく予定である。

3) 自然史学会連合

自然史の教育・研究の重要性を広く訴えて、その活性化を計ることを趣旨にして自然史学会連合が1995年6月3日に設立された。学会としてもこの趣旨には賛同できるものと判断して、設立にあたって連合に参加した。今後の活動にあたって来年から年間2万円程度の分担金を負担する要請があり、当学会としてはこれに応じる予定である。

4. 会計報告および次年度予算

1) 1995年度会計報告

別紙*のとおり報告され、承認された。

2) 1996年度予算

別紙*のとおり提案され、審議の後、原案どおり承認された。

*決算報告および予算案は種生物学研究

20号に掲載の予定

5. 次期シンポジウム開催予定地について

茨城県つくば市の農業環境技術研究所の方々にお世話していただく予定である。

6. 片岡賞

投稿原稿が少く、PSB10号3巻の発行が遅れている。そのため、受賞者は未定である。発行を終え次第、選考作業を開始する。

7. その他 会計監査委員の追認

昨年度総会では会計幹事の承認がもれ

ていたので、1995年11月に会計監査委員を小菅桂子氏（神戸大）と鈴木武氏（兵庫県博）にあらためて委嘱した。経緯の報告の後、両氏への移植が追認された。

学会事務局よりのお知らせ

学会事務分担の分散について

幹事の変更に伴いこれまで京都事務局で集中していた種生物学会の事務を各幹事の勤務地で処理しています。会員の方々には迷惑をおかけしますが、問い合わせなど下記へお願いいたします。

庶務 瀬戸口浩彰

〒192-03 八王子市南大沢1-1 東京都立大学理学部牧野標本館

Tel. 0426-77-2423 Fax. 0426-77-2421

E-mail: setoguchi-hiroaki@c.metro-u.ac.jp

会計 副島顕子

〒593 堺市学園町1-1 大阪府立大学総合科学部

Tel. 0722-52-1161(ex. 2730)

Fax. 0722-55-2981

E-mail: soejima@cias.osakafu-u.ac.jp

編集：PSB 学会京都事務局に同じ

編集：和文誌およびニュースレター

山口裕文 〒593 堺市学園町1-1 大阪府立大学農学部

Tel. 0722-52-1161(ex. 2431)

Fax. 0722-52-0341

E-mail: hyama@plant.osakafu-u.ac.jp

その他 京都事務局 〒601-01 京都市左京区北白川追分町京都大学理学部植物学教室内 Tel 075-753-4131

Fax 075-753-4122

書評

「月下美人はなぜ夜咲くのか」

井上健著、岩波科学ライブラリー、

109 pp, 1995年, 1000円

“月下美人”と聞いて、どんな花を咲かせるかを知っている人がどれくらいいるのか定かではないが、夏に直径 20 cm 前後もある白い花を咲かせるサボテンの仲間である。この花が、夜中に開花し、翌日にはしほんでしまうことを知っている人が、どれくらい居るかも定かではないが、ともかく、夜に咲くらしいということがタイトルからも伺える。そこで読者は、なぜ夜に咲くのかという疑問を抱きつつ読み進めるであろうが、読みども読みどもこの本にはそのような美人は登場しない。実はこの本は、帯にあるように、“色と匂いで相手を誘い込む、花と虫との絶妙な駆け引き”（やはり前半部分が美人の話じゃないかという気もする）についての、いわば送粉生物学の読み物なのである。事実、月下美人の話は、七割がた読んだ頃に現れ、4 ページ弱を割いて、すぐ別の話題に移ってしまった。月下美人の話をはじめとする、夜咲きの花の話だと、花の生理学を期待して読んでいると、少し肩すかしを食らう感がなきにしもあらずである。

先に述べたように、この本は送粉生物学の一般向けの読み物であるが、一つ難があるとすれば、コストとベネフィット、また、それに伴う選択圧などと進化の関係についての基礎的な記述があまり見あたらないことであろう。そのような知識なしに読むと、どうも学部生の頃、講義に15分ほど遅刻してしまったときのような、何か前置きを聞

き逃しているような物足りなさを感じるのではないか。「送粉動物が花を訪れる最も普通の目的は、自分や家族のための食料の調達です。そのためには、一つの花または群落から、できるだけ多くの食料を、短時間のうちに獲得する方が好ましいのです。」（第四章）、「植物の側の最大の目標は、できるだけ多くの他の花に自分の花粉をばらまくことです。そのためには、一つの花が提供する報酬の量をできるだけ減らして、花粉を託した動物がなるべく多くの花を訪れるようにすることが望ましいのです。」（第五章）、「植物の側で動物に提供する報酬を極力減らして行き着いた先が、報酬をゼロにするというやり方です。」（第六章；いずれも章の書き出しの文章）などがその例である。しかしそれ以前に、虫と花がお互いに助け合って利益を得る“共生”をイメージしていた読者には、‘なんと花や昆虫は自分勝手なのだろうか」と、とたんにポリネーションの生物学的意義がイメージダウンしそうである。しかし、それが共生の真の姿なのだという話は、本書のエピローグにもあり、また、ほかのいくつもの本に述べられているので、詳しくはそれらに譲ることにしよう。

地球共生系という言葉が使われ始めてから、まだ 10 年と経ていないが、ここ数年の間に様々な良書が出版してきた。生物多様性という言葉も同様に、最近の進化・生態学のキーワード的存在である。後者は、川那部浩哉氏の「曖昧の生態学」にもあるように、種間における「関係」の多様性の存在・重要性をも指摘している。これらの言葉に代表されるように、種間の、しかも動物と植物といった全く異なる生活系を營

む者同士においても、お互いにうまく利用しあうといった依存関係の存在の事実を、実際に身近に観察できる例として、送粉系は最も手頃なものである。また、本書に述べられているポリネーション・シンドロームや「花粉をつけるさまざまな方法」（第三章）などは、生物種間の共進化を理解する上で、身近な例であろう。こういった意味で、比較的一般向けとして書かれた送粉生物学の本が出版されたことは、大きな意味を持っていると思われる。

さて、最初の話に戻るが、私自身は月下美人が咲いているのを見たことがない。も

ちろん、これは中南米原産の大きなサボテンなので、そのあたりにある植物ではないが、温室のある植物園であれば、植物自体はときどき見かける。私の近所にある福岡市立植物園にも、花の咲いている写真が飾られているが、その時間帯はどう考えても開園時間ではないであろう。特別公開などをやっていたら、是非とも開花に立ち会って、立ちこめる甘い香りの中で、しばしその自生地の送粉者を想像したいものである。

三宅 崇（九州大学理学部生物学教室）

会費納入のお願い

会会費の納入には種生物学研究に閉じ込みの振込用紙をお使い下さい。会費は一般会員8000円、学生会員5000円となっています。会誌がお手元に無い方は下記あてに納入して下さい。

郵便振替

口座番号 01030-3-21704

講座名 種生物学会

なお、2年以上会費滞納の場合は自動的に退会扱いとし、会誌とニュースレターの発送を停止しています。会誌が届かなくなったら、会費の払込状況を確認してください。

入退会変更届について

入退会、住所所属変更などは種生物学会京都事務局（郵便番号601-01
京都市左京区北白川追分町京都大学理学部植物学教室内075-753-4131）または庶務幹事へ、ご連絡下さい。

種生物学研究への投稿のお願い

種生物学研究では総説、論文、書評などの原稿を歓迎致します。夏休み終わりころまでに原稿が届けばその年度の種生物学研究に掲載可能です。会員の積極的な投稿をお待ちしています。

また、書評を充実するために、新たな編集体制を取っています。会員の方で書籍を出版された場合は、近くの編集員もしくは委員長までお知らせください。

和文誌編集委員会より

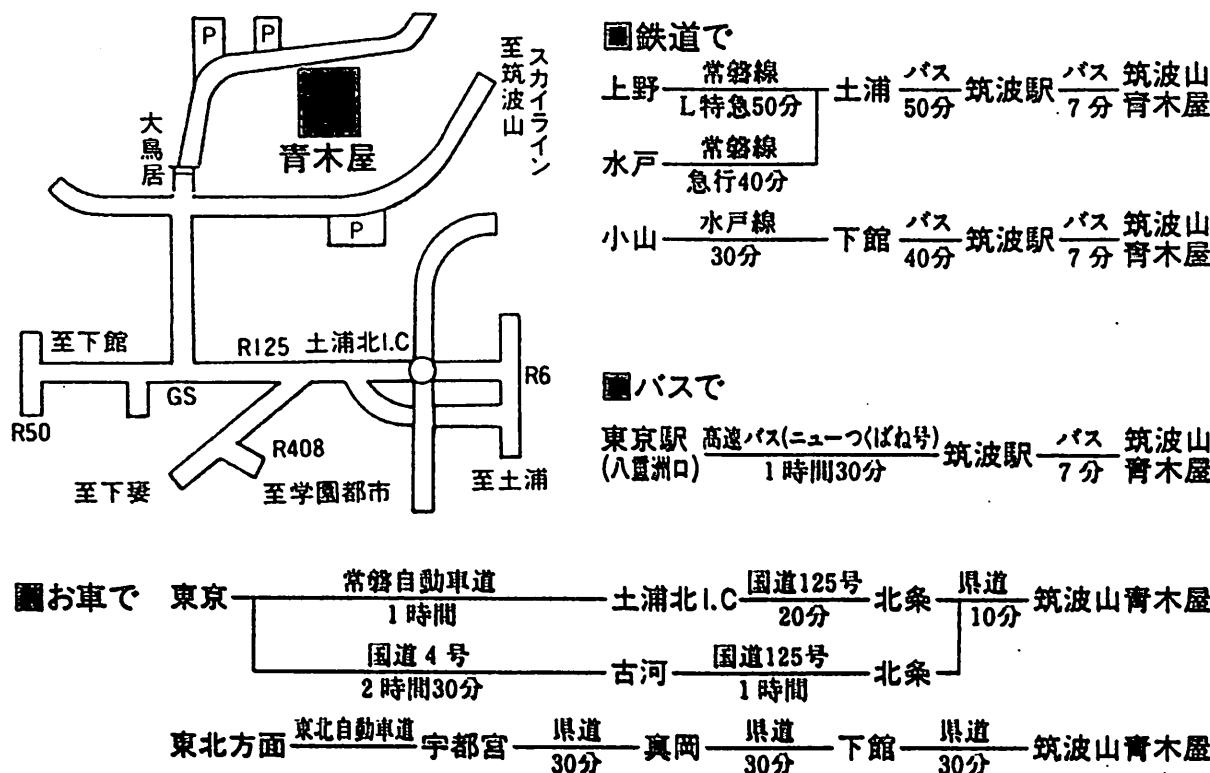
遅くなりましたが、ニュースレター14号を皆様にお届けします。例年であれば、5、6月頃に幾つかの原稿が届くのですが、シンポジウムの案内をする時期に重なってしまいました。ご意見などお寄せ下さい。なお、種生物学研究20号は、特集号として、現在編集中です。年内にはお手元に届ける予定です。

《第28回種生物学シンポジウム会場までの交通案内》

会場名 筑波山ホテル「青木屋」

住所 〒300-43 茨城県つくば市筑波753-1

TEL: 0298-66-0311 (代) FAX: 0298-66-1291



バスを使用した場合(東京駅八重洲南口→筑波駅→筑波神社)

★高速バス・ニューワンぱね号(東京駅八重洲南口発) 筑波山行き バス時刻表
(片道料金 1,700円)

(社名)	関鉄	関鉄	JR	JR	関鉄	関鉄
東京駅八重洲南口 発	11:05	12:50	14:45	16:35	18:35	20:20
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
筑 波 山 着	12:45	14:30	16:25	18:15	20:15	22:00

★筑波駅発 筑波山神社行き バス時刻表(片道料金 210円)

筑波駅 発	13:25	13:55	15:50	16:15	16:45	17:40
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
筑波山神社(終点) *	13:32	14:02	15:57	16:22	16:52	17:47
(続き)						
筑波駅 発	18:05	18:35				
↓	↓	↓				
筑波山神社(終点) *	18:12	18:42				

*ホテル「青木屋」は終点のすぐ隣です。

筑波駅から青木屋までのタクシー
料金は約1300円です。

(注意)東京駅八重洲南口からは「つくばセンター行き」バスも出ていますが、これは筑波山へは行きませんので、乗らぬようくれぐれもご注意下さい。

第28回種生物学シンポジウム申込書

氏名 _____ 性別 男 ___ 女 ___

所属 _____

連絡先住所 〒 _____

TEL: _____ FAX: _____

e-mail: _____

・ 参加費 12月27日まで 一般 6,500円 _____ 学生 3,000円 _____
12月28日以降 一般 ~~6,500円~~ _____ 学生 3,500円 _____
1,000

2月28日（金） 3月 1日（土） 3月 2日（日）

・宿泊費

一般 6,000円 _____ 6,000円 _____
学生 5,000円 _____ 5,000円 _____

・朝食 700円 _____ 700円 _____
・昼食 800円 _____ 800円 _____
・夕食 1,000円 _____ 5,000円 _____ (懇親会)

合計 _____ 円

参加申込先：下記まで郵送あるいはFAXで 12月27日（金） までに
申し込み願います。

〒305 つくば市観音台3-1-1 農業環境技術研究所
保全植生研究室内 第28回種生物学シンポジウム準備委員会

FAX: 0298-38-8199 (共通)

参加費等の合計金額は、申し込みと同時に下記の郵便振替口座にお振
り込み下さい。

振替口座 00190-8-115413
口座名義 種生物学シンポジウム

シンポジウムに関するお問い合わせは下記までお願ひいたします。

農業環境技術研究所 保全植生研究室 松尾和人

TEL: 0298-38-8327 (直通)